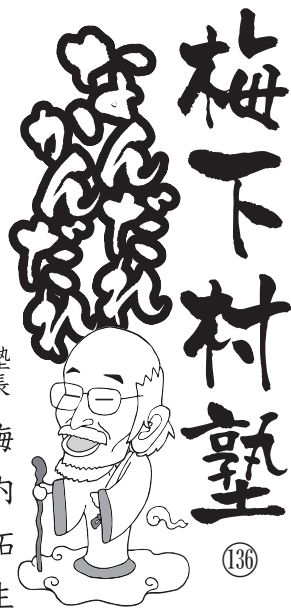


「森と水と命の惑星」国際会議

～地域と世界の心と魂を詠む～



塾長 梅内 拓生

(押し付けと告げ口)

地殻運動、温暖化、寒冷化など地球環境の変化の兆しは大きな関心を呼んでいる。世界の政治状況はこれら深刻な状況への対応の認識はうまくいっていない。

第2次世界大戦の戦勝国の政治の力がまだ幅を利かせている。いわゆる表看板は民主主義を掲げ、裏では押し付けと告げ口外交が幅を利かせている。

1月30日の新聞に、細胞は先祖返りしている。いろんな組織や臓器の根幹細胞になりえることをしめす実験が発表された。日常の言葉でいうと忍耐をして我慢をしているうちに、その

ような力が生まれてく

ると言うことである。深く肝に響くニュースである。

マッカーサー元帥を頂点とする日本国占領連合軍司令部は占領統治のための憲法を日本に押し付けた。この歴史的事実を現在の日本人は学校では教わっていない。

私は40歳代に国連機関のWHOで10年以上勤務した経験から、第2次世界大戦前後の世界政治の状況を理解し、自分の考えを持つことができた。同年代である同級生と話をしても、このことは理解しにくいようだ。ましてや、若い年代の人はこの理解は困難なようだ。

今回で梅下村塾は1

36回目になるが、私は日本の常識と世界の常識を超えたところに世界の国々の相互理解の可能性があると信じて、気仙の魂と心を記述してきた。東海新報の記事にこの願いとながる活動が生まれてきていることは喜ばしいことである。気仙の魂と心は他の国の(押し付けと告げ口文化)を懐の深くに飲み込んで解かして、新しいエネルギーに代えてお返しをすればいいと思う。

(3・11大震災と現在)

2013 第54回 彩光会展⑥を詠む

レクイエム 佐々木勝彦 気仙町 油彩 F25号

スーパードリーム 久納豊 高田町 油彩 F20号

一本松と満月 大友厚夫 立根町 色鉛筆 63号×70号

沈む家族 村上隼人 高田町 写真 カラー 500号×650号

冷たかったろうに 渡辺鉦悦 小友町 油彩 F50号

海に沈んだ人々への鎮魂の絵画・写真展である。

返句

(遠い月明り)

月明りどこまで照らす 海の奥

1月23日付第5面を詠む 東海文芸

詩 華敵 狩集憲彦

「見えないもの聞こえないものについての十二の詩篇」

さゝやかなものやこと 何気ないものやことに 魅かれる

さゝやかなものやこと 何気ないものやことは 無理がないから 嘘がないから

萱草(わすれぐさ)に 寄す 立原道造の詩と ひびき合わせてみる

「はじめののの」に ささやかな地異は そのかたみに

灰を降らした この村に ひとしきり

灰はかなしい追憶のやうに 音立てて 樹木の梢に 家々の屋根に 降りしきつた

返句

(地異)

海風や地異しずまりて 湾深し

(東海新報記事から)

1月26日の世迷言は中国の深刻な水不足について述べ、軍拡よりは水拡が大切ではないかと述べている。

現代の一党独裁の共産党は帝国主義の拡大路線を続けて他の国の領土にまで手をのばしているが、これはもはや維持できない限界にきている。いにしえの中国の生んだ聖人である孔子は人倫の道を説き、中国最古の詩編である詩経に「詩三百、一言以(もって)これを蔽(おお)う、曰わく、思い邪(よこしま)なし」と述べている。

この教えまさに肝に銘じるべしである。孔子の言葉はまさに気仙の魂と心と響き合っている。